

第三者評価結果

児童養護施設 防府海北園

1 養育・支援

(1) 養育・支援の基本		第三者 評価結果 (abc評価)
①	子どもの存在そのものを認め、子どもが表出する感情や言動をしっかり受け止め、子どもを理解している。	b
②	基本的欲求の充足が、子どもと共に日常生活を構築することを通してなされるよう養育・支援している。	b
③	子どもの力を信じて見守るという姿勢を大切にし、子どもが自ら判断し行動することを保障している。	b
④	発達段階に応じた学びや遊びの場を保障している。	b
⑤	秩序ある生活を通して、基本的生活習慣を確立するとともに、社会常識及び社会規範、様々な生活技術が習得できるよう養育・支援している。	b
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点)</p> <p>1 子どもの基本的欲求の把握には努めているが、職員の経験からの差などから、一般家庭と比べるとまだまだ十分ではないとの謙虚な自己評価が出ているように、子どもを尊重し、子どもの満足向上に努める真摯な姿勢が伺える。</p> <p>2 施設内での保育プログラムの作成は、今後の課題である。</p>		

(2) 食生活		第三者 評価結果 (abc評価)
①	食事は、団らんの場でもあり、おいしく楽しみながら食事ができるよう工夫している。	a
②	子どもの嗜好や健康状態に配慮した食事を提供している。	a
③	子どもの発達段階に応じて食習慣を身につけることができるよう食育を推進している。	b
(3) 衣生活		
①	衣服は清潔で、体に合い、季節に合ったものを提供している。	b
②	子どもの衣習慣を習得し、衣服を通じて適切に自己表現できるように支援している。	a
(4) 住生活		
①	居室等施設全体がきれいに整美されている。	b
②	子ども一人一人の居場所が確保され、安全、安心を感じる場所となるようにしている。	a
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点)</p> <p>1 衣食住関係では、生活環境に不都合なハード面であっても、可能な限り快適な生活環境作りに取り組んでいる。</p> <p>2 食生活では各テーブルに生花が飾られ、ランチョンマットが置かれている。年齢に合った調理法や栄養のバランスに配慮した献立、食物アレルギーに配慮した食事提供がされ、嗜好調査や残量チェックもされている。</p> <p>3 居室は4人部屋が基本であるが、床暖房やエアコンを設置するとともに、できるだけプライバシー保護に配慮している。</p>		

(5) 健康と安全	第三者 評価結果 (abc評価)
① 発達段階に応じ、身体の健康（清潔、病気、事故等）について自己管理ができるよう支援している。	b
② 医療機関と連携して一人一人の子どもに対する心身の健康を管理するとともに、異常がある場合は適切に対応している。	b
(6) 性に関する教育	
① 子どもの年齢・発達段階に応じて、異性を尊重し思いやりの心を育てるよう、性についての正しい知識を得る機会を設けている。	b
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点)</p> <p>1 発達段階に応じて、身体の健康について支援されているが、①嗽の習慣を養うための支援が不十分であったり、②職員間で医療や健康に関する学習の機会が少ないなど、職員の目指す目標までには達していないとの自己評価であるが、高い目標達成に向けて努力している。</p>	

(7) 自己領域の確保	第三者 評価結果 (abc評価)
① でき得る限り他児との共有の物をなくし、個人所有とするようにしている。	a
② 成長の記録（アルバム）が整理され、成長の過程を振り返ることができるようにしている。	b
(8) 主体性、自律性を尊重した日常生活	
① 日常生活のあり方について、子ども自身が自分たちの問題として主体的に考えるよう支援している	b
② 主体的に余暇を過ごすことができるよう支援している。	a
③ 子どもの発達段階に応じて、金銭の管理や使い方など経済観念が身につくよう支援している。	a
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点)</p> <p>1 ①日常生活のプログラムは年間通じてほぼ決まっており、子どもが主体的に行事の企画・運営に関わることは、でき難いが、②シャンプーなどの日用品を子どもの好みで準備したり、③主体的に余暇が過ごし易いように配慮したり、④小遣いの管理や使い方などを通じて経済観念が身に付くように支援している。</p>	

(9) 学習・進学支援、進路支援等	第三者 評価結果 (abc評価)
① 学習環境の整備を行い、学力等に応じた学習支援を行っている。	a
② 「最善の利益」にかなった進路の自己決定ができるよう支援している。	a
③ 職場実習や職場体験等の機会を通して、社会経験の拡大に取り組んでいる。	a
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点)</p> <p>1 個人で勉強できる個別スペースが無いために、グループホームを作り、居室内部の空間を作ったり、進路指導においては、進学や就職に関する情報を収集し、自己決定できるよう支援するとともに、退所してからの生活が自立できるようにと、社会経験の拡大にも積極的に取り組んでいる。</p>	

(10) 行動上の問題及び問題状況への対応	第三者 評価結果 (abc評価)
① 子どもが暴力・不適応行動などの問題行動をとった場合に、行動上の問題及び問題状況に適切に対応している。	b
② 施設内で子ども間の暴力、いじめ、差別などが生じないよう施設全体で取り組んでいる。	b
③ 虐待を受けた子ども等、保護者からの強引な引き取りの可能性がある場合、施設内で安全が確保されるよう努めている。	b
(11) 心理的ケア	
① 心理的ケアが必要な子どもに対して心理的な支援を行っている。	b
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点)</p> <p>1 自己評価などにも挙げられているように、マニュアルは整備されているものの、①問題行動に対して、適切な援助技術の習得が、一部には、十分でない、②保護者からの強引な引き取りに対する対応について、職員への周知徹底が不十分、③心理的ケアが必要な子どもに係るスーパービジョンが不十分、④心理職員数の不足などの、課題が残る。</p>	

(12) 養育の継続性とアフターケア	第三者 評価結果 (abc評価)
① 措置変更又は受入れに当たり継続性に配慮した対応を行っている。	b
② 家庭引き取りに当たって、子どもが家庭で安定した生活を送ることができるよう家庭復帰後の支援を行っている。	b
③ できる限り公平な社会へのスタートが切れるように、措置継続や措置延長を積極的に利用して継続して支援している。	a
④ 子どもが安定した社会生活を送ることができるよう退所後の支援に積極的に取り組んでいる。	c
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点)</p> <p>1 高校卒業後も自立に必要な力が付くまでは、措置延長で対応している。 2 家庭引き取りについては、指導委託のあるケースは子ども家庭支援センター海北で継続的に支援が行なわれているが、退所児童のアフターケアについては、計画書、記録が整備されていない。</p>	

2 家族への支援

(1) 家族とのつながり	第三者 評価結果 (abc評価)
① 児童相談所や家族の住む市町村と連携し、子どもと家族との関係調整を図ったり、家族からの相談に応じる体制づくりを行っている。	a
② 子どもと家族の関係づくりのために、面会、外出、一時帰宅などを積極的に行っている。	a
(2) 家族に対する支援	
① 親子関係の再構築等のために家族への支援に積極的に取り組んでいる。	b
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点)</p> <p>1 家庭支援専門相談員を独立した専門職として配置している。 2 ゲストハウスを親子で利用したり、家事や調理等のアドバイスを受けることができるようにしている。必要であれば、保護者を交えたケース会議を積極的に行なっている。</p>	

3 自立支援計画、記録

(1) アセスメントの実施と自立支援計画の策定	第三者 評価結果 (abc評価)
① 子どもの心身の状況や、生活状況を把握するため、手順を定めてアセスメントを行い、子どもの個々の課題を具体的に明示している。	a
② アセスメントに基づいて子ども一人一人の自立支援計画を策定するための体制を確立し、実際に機能させている。	a
③ 自立支援計画について、定期的実施状況の振り返りや評価と計画の見直しを行う手順を施設として定め、実施している。	a
(2) 子どもの養育・支援に関する適切な記録	
① 子ども一人一人の養育・支援の実施状況を適切に記録している。	b
② 子どもや保護者等に関する記録の管理について、規程を定めるなど管理体制を確立し、適切に管理を行っている。	a
③ 子どもや保護者等の状況等に関する情報を職員が共有するための具体的な取組を行っている。	b
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点)</p> <p>1 自立支援計画の策定とアセスメントの実施、子どもの養育・支援に関する記録については、ケース記録、アセスメントシート、観察日誌などにより、適切な記録、管理が行なわれている。</p>	

4 権利擁護

(1) 子どもの尊重と最善の利益の考慮	第三者 評価結果 (abc評価)
① 子どもを尊重した養育・支援についての基本姿勢を明示し、施設内で共通の理解を持つための取組を行っている。	b
② 社会的養護が子どもの最善の利益を目指して行われることを職員が共通して理解し、日々の養育・支援において実践している。	b
③ 子どもの発達に応じて、子ども自身の出生や生い立ち、家族の状況について、子どもに適切に知らせている。	a
④ 子どものプライバシー保護に関する規程・マニュアル等を整備し、職員に周知するための取組を行っている。	b
⑤ 子どもや保護者の思想や信教の自由を保障している。	a
(2) 子どもの意向への配慮	
① 子どもの意向を把握する具体的な仕組みを整備し、その結果を踏まえて、養育・支援の内容の改善に向けた取組を行っている。	a
② 職員と子どもが共生の意識を持ち、子どもの意向を尊重しながら生活全般について共に考え、生活改善に向けて積極的に取り組む。	a
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点)</p> <p>1 子どものプライバシー保護に関する規程・マニュアル等を整備し、職員に周知する取組みは行なっているが、職員間においては、徹底が不十分な点もある。</p> <p>2 子どもの意向への配慮においては、子どもへの個別の面接で意向に関する調査を行なったり、ルール検討委員会を立ち上げて、子どもの意見を取り入れ、積極的に検討・対応している。</p>	

(3) 入所時の説明等	第三者 評価結果 (abc評価)
① 子どもや保護者等に対して、養育・支援の内容を正しく理解できるような工夫を行い、情報の提供を行っている。	a
② 入所時に、施設で定めた様式に基づき養育・支援の内容や施設での約束ごとについて子どもや保護者等にわかりやすく説明している。	a
③ 子どものそれまでの生活とのつながりを重視し、そこから分離されることに伴う不安を理解し受けとめ、不安の解消を図っている。	a
(4) 権利についての説明	
① 子どもに対し、権利について正しく理解できるよう、わかりやすく説明している。	b
(5) 子どもが意見や苦情を述べやすい環境	
① 子どもが相談したり意見を述べたりしたい時に相談方法や相談相手を選択できる環境を整備し、子どもに伝えるための取組を行っている。	a
② 苦情解決の仕組みを確立し、子どもや保護者等に周知する取組を行うとともに、苦情解決の仕組みを機能させている。	b
③ 子ども等からの意見や苦情等に対する対応マニュアルを整備し、迅速に対応している。	b
(6) 被措置児童等虐待対応	
① いかなる場合においても体罰や子ども的人格を辱めるような行為を行わないよう徹底している。	a
② 子どもに対する暴力、言葉による脅かし等の不適切なかかわりの防止と早期発見に取り組んでいる。	b
③ 被措置児童等虐待の届出・通告に対する対応を整備し、迅速かつ誠実に対応している。	a
(7) 他者の尊重	
① 様々な生活体験や多くの人たちとのふれあいを通して、他者への心づかいや他者の立場に配慮する心が育まれるよう支援している。	a
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点)</p> <p>1 入所時、子どもや保護者に対して、養育・支援の内容や施設での約束事について情報提供するとともに、ホームページを作成し、学年に応じ、支援について、わかりやすく十分に説明している。</p> <p>2 意見箱を設置したり、副園長・主任に個別意見を述べる日を設けたり、苦情記入カードの作成と設置を行なうなど、子どもの不安や苦情の解決の仕組みが作られている。</p> <p>3 体罰等の禁止を職員へ徹底するとともに、子どもには権利ノートの説明をする際に、「虐待の通告」についての説明も行なっている。</p>	

5 事故防止と安全対策

	第三者 評価結果 (abc評価)
① 事故、感染症の発生時など緊急時の子どもの安全確保のために、組織として体制を整備し、機能させている。	a
② 災害時に対する子どもの安全確保のための取組を行っている。	a
③ 子どもの安全を脅かす事例を組織として収集し、要因分析と対応策の検討を行い、子どもの安全確保のためにリスクを把握し対策を実施している。	b
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点)</p> <p>1 各管理マニュアル・災害時対応マニュアルが作成され、定期的な見直しもされている。避難訓練は毎月行なわれ、今年度は夜間を想定した訓練も行なわれている。</p> <p>2 一昨年より地域の防災訓練にも参加して子どもの安全確保のための取組みがなされている。</p> <p>3 「不審者への対応」については、マニュアルはあるが、訓練は実施されていない点は、今後の課題である。</p>	

6 関係機関連携・地域支援

		第三者 評価結果 (abc評価)
(1)	関係機関等の連携	
①	施設の役割や機能を達成するために必要となる社会資源を明確にし、児童相談所など関係機関・団体の機能や連絡方法を体系的に明示し、その情報を職員間で共有している。	a
②	児童相談所等の関係機関等との連携を適切に行い、定期的な連携の機会を確保し、具体的な取組や事例検討を行っている。	a
③	幼稚園、小・中学校、高等学校、特別支援学校など子どもが通う学校と連携を密にしている。	a
(2)	地域との交流	
①	子どもと地域との交流を大切にし、交流を広げるための地域への働きかけを行っている。	a
②	施設が有する機能を地域に開放・提供する取組を積極的に行っている。	a
③	ボランティア受入れに対する基本姿勢を明確にし、受入れについての体制を整備している。	b
(3)	地域支援	
①	地域の具体的な福祉ニーズを把握するための取組を積極的に行っている。	b
②	地域の福祉ニーズに基づき、施設の機能を活かして地域の子育てを支援する事業や活動を行っている。	a
(特に評価が高い点、改善が求められる点) 1 児童相談所等の関係機関等や子供が通う学校等との連携は十分にとられている。 2 地域活動に活発に参加するとともに、子ども家庭支援センター海北を設置して、子育て相談、子育て支援サークル等、地域の方が自由に参加できる活動を実施するなど、地域との交流・支援を大切にしている。		

7 職員の資質向上

		第三者 評価結果 (abc評価)
①	組織として職員の教育・研修に関する基本姿勢が明示されている。	c
②	職員一人一人について、基本姿勢に沿った教育・研修計画が策定され計画に基づいて具体的な取組が行われている。	c
③	定期的に個別の教育・研修計画の評価・見直しを行い、次の研修計画に反映させている。	b
④	スーパービジョンの体制を確立し、施設全体として職員一人一人の援助技術の向上を支援している。	b
(特に評価が高い点、改善が求められる点) 1 今後は、職員体制の充実や質の向上を図るためにも、教育・研修に関する基本姿勢を明示し、それに沿った教育・研修計画が策定され、実行・評価・分析・見直しを十分行なう、体制作りが望まれる。		

8 施設の運営

(1) 運営理念、基本方針の確立と周知	第三者 評価結果 (abc評価)
① 法人や施設の運営理念を明文化し、法人と施設の使命や役割が反映されている。	a
② 法人や施設の運営理念に基づき、適切な内容の基本方針が明文化されている。	a
③ 運営理念や基本方針を職員に配布するとともに、十分な理解を促すための取組を行っている。	a
④ 運営理念や基本方針を子どもや保護者等に配布するとともに、十分な理解を促すための取組を行っている。	a
(2) 中・長期的なビジョンと計画の策定	
① 施設の運営理念や基本方針の実現に向けた施設の中・長期計画が策定されている。	b
② 各年度の事業計画は、中・長期計画の内容を反映して策定されている。	b
③ 事業計画を、職員等の参画のもとで策定されるとともに、実施状況の把握や評価・見直しが組織的に行われている。	b
④ 事業計画を職員に配布するとともに、十分な理解を促すための取組を行っている。	a
⑤ 事業計画を子ども等に配布するとともに、十分な理解を促すための取組を行っている。	a
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点)</p> <p>1 運営理念や基本方針が明文化され、ヒアリングにおいても職員への周知が徹底されている。また、保護者へも配布し、入所時には理解を促すための説明をし、施設への理解を得ている。2 中・長期計画については、措置制度であるため、将来見通しが立ちにくいとの理由で、具体的な取組みは始まったばかりである。現段階での将来見通しの基に、中長期的なビジョンと計画を立て、組織的・年次的・計画的な施設運営が求められる。</p>	

(3) 施設長の責任とリーダーシップ	第三者 評価結果 (abc評価)
① 施設長は、自らの役割と責任を職員に対して明らかにし、専門性に裏打ちされた信念と組織内での信頼をもとにリーダーシップを発揮している。	a
② 施設長自ら、遵守すべき法令等を正しく理解するための取組を行い、組織全体をリードしている。	b
③ 施設長は、養育・支援の質の向上に意欲を持ち、組織としての取組に十分な指導力を発揮している。	a
④ 施設長は、経営や業務の効率化と改善に向けた取組に十分な指導力を発揮している。	a
(4) 経営状況の把握	
① 施設運営をとりまく環境を的確に把握するための取組を行っている。	b
② 運営状況を分析して課題を発見するとともに、改善に向けた取組を行っている。	b
③ 外部監査（外部の専門家による監査）を実施し、その結果に基づいた運営改善が実施されている。	c
④ 運営内容（決算内容等）の開示が適切に行われている。	a

(特に評価が高い点、改善が求められる点)

- 1 施設長の責任とリーダーシップについては、その役割と責任について、職員に表明、周知し、財務労務の管理、サービスの質の向上、業務の効率化、職場環境の改善に向けた取組みに指導力を発揮している。
しかし、遵守すべき法令のリスト化については、十分ではないと判断した。
- 2 施設運営状況の把握・改善等には、熱意を持って取り組まれているが、中・長期計画への反映は、これからという段階で、十分ではない。
- 3 外部監査の導入については、引続き検討課題である。

(5) 人事管理の体制整備	第三者 評価結果 (abc評価)
① 施設が目標とする養育・支援の質を確保するため、必要な人材や人員体制に関する具体的なプランが確立しており、それに基づいた人事管理が実施されている。	b
② 客観的な基準に基づき、定期的な人事考課が行われている。	c
③ 職員の就業状況や意向を定期的に把握し、必要があれば改善に取り組む仕組みが構築されている。	c
④ 職員処遇の充実を図るため、福利厚生や健康を維持するための取組を積極的に行っている。	a

(6) 実習生の受入れ	第三者 評価結果 (abc評価)
① 実習生の受入れと育成について、基本的な姿勢を明確にした体制を整備し、効果的なプログラムを用意する等積極的な取組をしている。	a

(特に評価が高い点、改善が求められる点)

- 1 実習生の受入れは、マニュアルがあり、プログラムを用意して、積極的な取組をしている。
- 2 人事管理については、必要な人材・人員確保に努めているが、一時的には、欠員状況が生じている。
- 3 定期的な人事考課は行なわれていない。その方法・手法等も含め、今後の検討課題である。

(7) 標準的な実施方法の確立	第三者 評価結果 (abc評価)
① 養育・支援について標準的な実施方法を文書化し、職員が共通の認識を持って行っている。	a
② 標準的な実施方法について、定期的に検証し、必要な見直しを施設全体で実施できるよう仕組みを定め、検証・見直しを行っている。	b

(8) 評価と改善の取組	第三者 評価結果 (abc評価)
① 施設運営や養育・支援の内容について、自己評価、第三者評価等、定期的に評価を行う体制を整備し、機能させている。	a
② 評価の結果を分析し、施設として取り組むべき課題を明確にし、改善策や改善実施計画を立て実施している。	a

(特に評価が高い点、改善が求められる点)

- 1 平成25年度より、第三者評価グループを立ち上げ、毎年度、自己評価を実施し、分析・検討を行ない、取り組むべき課題を明確にし、改善策や改善実施計画を立てて実施する体制が整備されている。